

## 第5回 東日本ジュニア・ラグビー菅平ジャンボリーの競技規則

関東ラグビーフットボール協会  
レフリー委員会

第5回 東日本ジュニア・ラグビー菅平ジャンボリーの競技規則は、大会実施要領第11項のとおり日本ラグビーフットボール協会制定の平成15年度（2003～2004）競技規則および19才未満標準競技規則、高専・高校以下の為の特別競技規則、ならびに『ジュニア・ラグビーの競技規則』に準ずるものとするが、本大会特別競技規則については、“下線”をもって表示した。

なお、今回、本大会の特別競技規則だけでなく、ジュニア・ラグビー全般の競技規則についても特に重要だと思われる部分については、書き出すと共に補足説明も付け加え、プレーヤー・レフリー・チーム間でのルールに関する意思統一と確認を行いたい。

また、本大会において、7月初旬に行われた関東ラグビーフットボール協会普及育成委員会中学生担当会で承認されたラインアウトの『試験的実施措置』を行うこととなり、それについても特別競技規則（第19条(1)(2)および7.）として盛り込んだ。本措置は下記のとおり。

### 現行のルール

- ・ラインアウトは、5人のラインアウトプレーヤー（ラインアウトに並んでいるプレーヤー）が、タッチラインより5メートルから10メートルの間に並んで形成される。

### 試験的実施措置

- ・ラインアウトは、  
2人から5人のラインアウトプレーヤー（ラインアウトに並んでいるプレーヤー）が  
タッチラインより5メートルから15メートルの間に並んで形成される。

但し、この試験的実施措置では、

- クイックスローインは認められない。
- ラインアウトに並ぶ人数は、ボールを投入する側が決定する。人数を5人より少なくする場合、必ず、相手側にその人数を伝えなければならない。
- レフリーは、相手方が人数をそろえるための時間を与えなければならない。

という制約をつけた。この『試験的実施措置』は、あくまで本大会においてのみ適用される。

最後に、2003年ルール改正において、ラインアウトのサポートについて「跳び上がる味方プレーヤーのウエストよりも下をサポートしてはならない」という項目が19才未満標準競技規則より削除されたが、7月初旬に行われた日本ラグビーフットボール協会普及育成委員会ジュニア・ラグビールール検討委員会で、本年度はこの改正をジュニア・ラグビーには適用せず、従来どおりサポートの位置はウエストで行うことが確認されたことを報告いたします。

文責：レフリー委員会 徳留 誠

## 第5回 東日本ジュニア・ラグビー菅平ジャンボリーの競技規則

| 原文・変更・追加・その他  | 備 考  |
|---|--|
| <p><b>第1条 グラウンド</b><br/> <b>【変更】</b><br/> <u>タッチラインとタッチラインの間を70メートル以内とする。</u></p> <p><b>第3条 プレーヤーの人数</b><br/> <b>【原文】（ジュニア・ラグビーの競技規則）</b><br/>           (1) 双方12名以内のプレーヤーによって行なう。<br/>           (2) リザーブの登録は、必ずフロントローのプレーヤーを含めて10名以内とし、全員の交替を認める。</p> <p>注意事項<br/>           (i) チームのメンバーの登録は22名とし、前後半で少なくとも4名の交替をを行うことを原則とする。<br/>           ただし、チームのメンバーが22名に持たない場合は、当事者間の話し合い、主催者の決定により別途登録人数、交替人数を規定することができる。<br/>           ( ) 試合に当たっては、当事者間の話し合い、主催者の決定により体重制、年齢制を導入することができる。</p> <p>7 正式の交替<br/> <b>【追加】</b><br/> <u>負傷したプレーヤーの交替は、必ずドクターの判断で行なう。</u></p> <p>10 一時的交替<br/> <b>【変更】</b><br/>           (a) 出血をおさめるか開いた傷口を覆うかの両方、またはい</p> | <p><b>【原文】（ジュニア・ラグビーの競技規則）</b><br/>           タッチラインとタッチラインの間を60メートル以内とする。</p> <p>《補足》<br/>           現在、ほとんどの場合、15人制のグラウンドをそのまま使用している現状と横への展開重視の観点から15人制と同じ広さとする。<br/>           但し、ラインアウトにおける反則の後の再開の位置は、タッチラインから15mの位置とする</p> <p>《補足》<br/>           交流を目的とする本試合（ジャンボリー大会）においては、入替えはハーフタイムのみとし、<u>全員の入替えを認めてもよい。</u>したがって、後半に負傷者が出た場合、入替ったプレーヤーの再出場を認める。</p> <p>《補足》<br/>           交流を目的とする試合の場合、その性質上、登録されたプレーヤー全員が少なくとも試合の半分以上の出場を目的とするため。</p> <p><b>【原文】</b><br/>           (a) 出血をおさめるか開いた傷口を覆</p> |

| 変更・追加・その他   | 備 考   |
|---|---|
| <p>いずれか一方の処置を受けるため競技区域からプレーヤーが出たときは、一時的交替を認める。<br/> <u>また、出血をとみなわなくても、ドクターの治療を要する場合ならびにコンタクトレンズの入れ替えの場合にもこれを認める。</u><br/> 一時的に交替されたプレーヤーが競技区域から出て経過時間15分以内にフィールドオブプレーに戻らない場合、一時的交替をしたプレーヤーは正式な交替となる。元の一時的に交替されたプレーヤーはフィールドオブプレーに戻ってはならない。</p> <p>13 入替ったプレーヤーが再度試合に加わること<br/> 【変更】<br/> 負傷によるものでなく入替ったプレーヤーは、負傷したプレーヤー、または、<u>出血・打撲等の治療やコンタクトレンズの入れ替えを行うプレーヤーの代わりにその試合に再び加わることができる。ただし、チームにその試合に出場していないプレーヤーがいない場合に限る。</u></p> <p><b>第4条 プレーヤーの服装</b><br/> 【原文】（注）国内高専・高校以下用<br/> プレーヤーは試合中ヘッドキャップを着用しなければならない。</p> | <p>うかの両方、またはいずれか一方の処置を受けるため競技区域からプレーヤーが出たときには、一時的交替を認める。一時的に交替されたプレーヤーが競技区域から出て経過時間15分以内にフィールドオブプレーに戻らない場合、一時的交替をしたプレーヤーは正式な交替となる。元の一時的に交替されたプレーヤーはフィールドオブプレーに戻ってはならない。</p> <p>《補足》<br/> 一時的交替の範囲を出血の治療だけでなく、打撲等の治療やコンタクトレンズの入れ替えにまで広げた。</p> <p>【原文】<br/> 入替わったプレーヤーは、たとえ負傷したプレーヤーの交替としても、その試合に再び加わることはできない。</p> <p>《補足》<br/> ハーフタイムにリザーブ全員の交替をする場合、交替後に負傷者が出た場合に両チームの人数を合わせるための措置。</p> <p>《指導項目》<br/> レフリーは、プレーヤーのヘッドキャップの顎紐部分が結ばれていない場合は、きちんと結ぶよう注意をする。</p> <p>《補足》<br/> 安全対策上の義務行為である</p> <p>《指導項目》<br/> プレーヤーのジャージがはだけた</p> |

| 変更・追加・その他   | 備 考   |
|---|---|
| <p><b>第5条 試合時間</b></p> <p>【変更】<br/> <u>試合時間は40分以内とし、相等しい時間の前後半に分けて行う。</u><br/> <u>また、14才未満のチームによる試合は、試合時間を30分以内とし、相等しい時間の前後半に分けて行う。</u><br/> (2)ハーフタイムの休憩時間は5分以内とする。<br/> (3)ハーフタイム後、サイドを交換する。</p> <p>5 失われた時間の延長</p> <p>【変更】<br/> <u>原則として、プレイヤーの負傷、プレイヤーの服装の変更、プレイヤーの交替と入替えにより失われた時間の延長は行わない。</u></p> <p><b>第6条 マッチオフィシャル</b></p> <p>1 レフリーの指名</p> <p>【変更】<br/> <u>レフリーは、試合主催者が指名する。レフリーの指名がなければ、両チームが協議の上レフリーを決定する。双方の協議がまとまらない場合には、ホームチームが指名する。また、タッチジャッジについても、上記の方法で指名する。</u></p> <p>3 試合前のレフリーの職務</p> <p>【原文】<br/> (a)トス<br/> レフリーはトスを行わせる。一方のキャプテンが硬貨を投げ、他方のキャプテンが表裏を言う。トスの勝者は、キック</p> | <p>り、ストッキングがずり落ちた状態ではプレーをさせない。</p> <p>《補足》<br/> プレイヤーに常に正しい服装でプレーをさせる意識をつけさせるための措置。</p> <p>【原文】（ジュニア・ラグビーの競技規則）<br/> 試合時間は40分以内とし、相等しい時間の前後半に分けて行う。<br/> (2)ハーフタイムの休憩時間は5分以内とする。</p> <p>《補足》<br/> 14才未満のチームの試合は、15分ハーフで行う。</p> <p>【原文】<br/> 失われた時間の延長は、その遅延が起こった前後半それぞれの中で行う。</p> <p>《補足》<br/> いわゆる、ロスタイムによる試合時間の延長は行わない。</p> <p>【原文】<br/> レフリーは、試合主催者が指名する。レフリーの指名がなければ、両チームが協議の上レフリーを決定する。双方の協議がまとまらない場合には、ホームチームが指名する。</p> <p>《補足》<br/> 複数の試合を同じグラウンドで続けて行う場合、前試合のハーフタイム</p> |

| 変更・追加・その他  | 備 考  |
|--|--|
| <p>クオフか、サイドかのいずれかを選択する。<br/>トスの勝者が、サイドを選択した場合には、相手側はキックオフを選択しなければならない。逆もまた同様である。</p> <p>(b) プレーヤーの服装の点検<br/>レフリーはプレーヤーの服装を点検して、第4条に反していないか確認しなければならない。<br/>レフリーはこの服装点検の責任をタッチジャッジに委任してもよい。</p> <p>(c) タッチジャッジ<br/>レフリーはタッチジャッジの職務に関して指示することができる。</p> <p>【追加】<br/><u>(d)レフリーは、原則として、試合開始20分前に両チームのスクラムに関わるプレーヤーを呼び寄せ、スクラムを組ませて正しく組めているか確認する。</u></p> <p><b>第10条 不正なプレー</b></p> <p>4 危険なプレー、不行跡</p> <p>(e) 危険なタックル<br/>いずれのプレーヤーも、相手側プレーヤーに、早すぎるタックル、遅すぎるタックル、または危険なタックルをしてはならない。<br/>いずれのプレーヤーも、相手側プレーヤーの肩の線より上へタックル、あるいはタックルしようとするのもしてはならない。相手の頸部、または頭部へのタックルは危険なプレーである。<br/>スティファームタックルは危険なプレーである。スティファームタックルとは腕を伸ばして相手側プレーヤーに打ち付けるようなタックルのことである。<br/>ボールを持っていないプレーヤーに対しプレーすることは、危険なプレーである。<br/>危険なタックルであるか否かを決定するのはレフリーである。レフリーは、タックラーの外見上から察せられる意図や、タックルの性質、タックルされたり突き倒されたプレーヤーの無防備な体勢など、周囲の状況を考慮する。これらのいずれも、大怪我の原因になりうる。<br/>危険なタックルはすべて、厳重に罰しなければならない。この種の不正なプレーをするプレーヤーは退場させなければならない。アドバンテージが適用されることもあるが、その反則がほぼ間違いなくトライを得ることを妨げたと認めたときは、ペナルティトライを与えなければならない。</p> <p>いずれのプレーヤーも、地面から両足が離れている相手</p> | <p>にトスを行う。</p> <p>《補足》<br/>スタイルチェックは、トスの前に行う。</p> <p>《指導項目》<br/>試合前に模擬スクラムを組み、スクラムの姿勢、足の位置等をレフリー・プレーヤー双方が確認する。</p> <p>《補足》<br/>肩の線より上（頸部や頭部へのハイタックル）へのタックルだけでなく、相手の襟を持つことも危険なタックルである。<br/>また、相手をつかまらず突き倒すプレーや頭突き、相手を掴んで振り回す行為はタックルではなく危険なプレーである。また、無防備なプレーヤーに対するチャージも危険なプレーである。</p> <p>《指導項目》<br/>レフリーは、これらの危険なタックルや危険なプレーに対しては、躊躇なく笛を吹き、きちんと指導する。</p> |

| 変更・追加・その他   | 備 考   |
|---|---|
| <p>側プレーヤーをタックルしてはならない。</p> <p>例外<br/>ボールを持ちトライするために飛び込んでいるプレーヤーをタックルしようとしてもよい。</p> <p><b>(注) 国内高専・高校以下用</b><br/>本則で規定された場合に加え、次のプレーは危険なプレーである。<br/>(a) 頭突き、体当たりおよび頭の下がったタックル<br/>(b) ボールを持っているプレーヤーが故意に肘または膝を前に出して相手に当たること。</p> <p><b>罰 ペナルティキック</b></p> <p><b>一時的退出(シン・ビン) 制度国内運用細則</b><br/>【変更】<br/>(c) <u>一時的退出(シン・ビン)の時間は5分間とし、ハーフタイムの休憩時間は含まない。</u><br/>後半、そのプレーヤーが入替わる場合、そのポジションのプレーヤーは一時的退出(シン・ビン)が解けるまで出場することができない。<br/>一時的退出(シン・ビン)は、ノーサイドにより自動的に終了する。</p> <p><b>第14条 地上にあるボール</b><br/>【原文】<br/>2 地上に横たわっているプレーヤーがしてはならないこと<br/>(a) ボールの上、またはボールの周辺に横たわること<br/>プレーヤーは、ボールの上、またはボールに近接して横たわって、相手がボールを獲得するのを妨げてはならない。<br/>(b) ボールを持って地上に横たわっているプレーヤーを越えて倒れこむこと<br/>プレーヤーは、ボールを持って地上に横たわっているプレーヤーの上に、またはそのようなプレーヤーを越えて故意に倒れ込んではいならない。<br/>(c) ボールに近接して地上に横たわっているプレーヤーを越えて倒れ込むこと<br/>プレーヤーはボールを中にして、またはボールに近接し</p> | <p>《補足》<br/>また、セービングをして立ち上がる前のプレーヤーに対するタックルは、危険なプレーである。</p> <p>【原文】<br/>(c) 一時的退出の時間は10分間とし、ハーフタイムの休憩時間は含まない。ノーサイドにより自動的に終了する。</p> <p>《補足》<br/>中学生といえども、厳しく対処すべき時にはシン・ビン等の措置も必要である。</p> |

| 変更・追加・その他   | 備 考   |
|---|---|
| <p>て地上に横たわっているプレーヤーの上に、またはそのようなプレーヤーを越えて故意に倒れ込んではいない。</p> <p><b>罰 ペナルティキック</b></p> <p>【追加】</p> <p>(d) <u>ブリッジング、ダイブ・イン、または、頭を腰より下げる姿勢でボールをプレーしようとする</u>こと</p> <p>(e) <u>地面、または地上に横たわっているプレーヤーにもたれかかってプレーしようとする</u>こと</p> <p><b>罰 ペナルティキック</b></p> <p><b>第15条 タックル</b></p> <p>【原文】</p> <p>5 タックラー</p> <p>(a) プレーヤーが相手側プレーヤーをタックルして双方が地面に倒れたとき、タックラーは直ちにタックルされたプレーヤーを離さなければならない。</p> <p>(b) さらにタックラーは直ちに立ち上がるか、タックルされたプレーヤーとボールから離れなければならない。</p> <p>(c) タックラーはボールをプレーする前に立ち上がらなければならない</p> <p><b>罰 ペナルティキック</b></p> <p>6 タックルされたプレーヤー</p> <p>(a) タックルされたプレーヤーはプレーの継続のため、直ちにボールをプレーできるようにしなければならない。</p> <p>(b) タックルされたプレーヤーは直ちにボールをパスするか、ボールを手放さなければならない。さらにそのプレーヤーは直ちに立ちあがるか、ボールから離れなければならない。</p> <p>(c) タックルされたプレーヤーはボールをいずれかの方向に置くことによってボールを手放すことができる。ただし動作は直ちに行わなければならない。</p> <p>(d) タックルされたプレーヤーは地面上でいずれかの方向にボールを押し進めること（前方にではなく）によってボールを手放すことができる。ただし動作は直ちに行わなければならない。</p> | <p>《補足》<br/>併せて、ボールに位置から離れた位置でのスweep・プレーやボールの前に立ちあがるプレーもオブストラクションとなる。</p> <p>《補足》<br/>プレーヤーは、自分の足で立ってプレーしなければならない。</p> <p>《補足》<br/>タックラーおよびタックルされたプレーヤーは、タックル成立後、ただちにボールや相手を放し、かつ、離れること。</p> <p>《補足》<br/>タックラーおよびタックルされたプレーヤーは、一旦、立ち上がってからプレーに参加すること。</p> |



| 変更・追加・その他  | 備 考   |
|--|---|
| <p><b>(注) 国内高専・高校以下用</b><br/> 「スクイズボール」をしてはならない。<br/> タックルされたプレーヤー、あるいは地面に倒れたプレーヤーが、身体と地面の間にボールを確保し脚の間からボールを後方に押し出すプレー（「スクイズボール」）をしてはならない。</p> <p>(e) 立っている相手プレーヤーがボールをプレーしようとする場合、タックルされたプレーヤーはボールを放さなければならない。</p> <p>(f) タックルされたプレーヤーが惰性でインゴールに入れば、そのプレーヤーはトライまたはタッチダウンをすることができる。</p> <p>(g) プレーヤーがゴールライン付近でタックルされた場合、これらのプレーヤーは直ちに手を伸ばしボールをゴールライン上またはゴールラインを越えてグラウンディングし、トライまたはタッチダウンすることができる。</p> <p><b>罰 ペナルティキック</b></p> <p>(h) タックルされたプレーヤーは、故意にボールをタッチに置いてはならない。タックルされたプレーヤーは、故意にボールをタッチに押し出してはならない。</p> <p><b>罰 反則の地点に対向する15メートルラインの地点でペナルティキック</b></p> <p>7 その他のプレーヤー</p> <p>(a) タックル後は、他のいずれのプレーヤーも立っていなければボールをプレーすることはできない。立っているプレーヤーとは、地面、または地上に横たわっているプレーヤーにもたれかかっているプレーヤーのことである。</p> <p>(b) タックル後は、立っているプレーヤーはいずれも、ボールキャリアーからボールを奪おうとしてもよい。</p> <p>(c) タックルの地点、またはタックルに近接した地点で、ボールをプレーする他のプレーヤーは、ボールの後方、かつタックルされたプレーヤーまたはタックラーのどち</p> | <p>《補足》<br/> 「スクイズボール（亀ラック）」はいかなる状況においても危険なプレーである。</p> <p>《補足》<br/> タックルされたプレーヤーは、前述（c）により『ボールをいずれかの方向に置くことによってボールを手放すことができる』（ワンプレーできる）とされているが、立っている相手プレーヤーがボールをプレーしようとする場合は、立っているプレーヤーが優先する。</p> <p>《補足》<br/> 『その他のプレーヤー』とは、『ライビング・プレーヤー』と表現されることが多い。</p> <p>《補足》<br/> 『タックル・オフサイド』（仮称）<br/> タックラーおよびタックルされた</p> |



| 変更・追加・その他  | 備 考  |
|--|--|
| <p>らかで自陣ゴールラインに近い方のプレーヤーよりも後方から、プレーしなければならない。</p> <p><b>罰 ペナルティキック</b></p> <p>(d) タックルの地点でボールを獲得したプレーヤーは、直ちにボールをプレーして、ボールをいずれかの方向に手放す、パスする、あるいはキックしなければならない。</p> <p><b>罰 フリーキック</b></p> <p>(e) 最初にボールを獲得したプレーヤーは、相手プレーヤーにタックルされた場合を除き、タックルの地点、またはタックルに近接した地点で地面に倒れてはならない。</p> <p><b>罰 ペナルティキック</b></p> <p>(f) タックルの地点、またはタックルに近接した地点で、最初にボールを獲得したプレーヤーは、相手プレーヤーがボールの後方、かつタックルされたプレーヤーまたはタックラーのどちらかで自陣ゴールラインに近い方のプレーヤーよりも後方から、プレーする限りは、その相手プレーヤーにタックルされることが有り得る。</p> <p><b>罰 ペナルティキック</b></p> <p>(g) タックル後は、地上に横たわっているプレーヤーはいずれも相手側プレーヤーがボールを獲得しようとするのを妨げてはならない。</p> <p>(h) タックル後は、地上に横たわっているプレーヤーはいずれも相手側プレーヤーをタックルしたり、タックルしようとしてはならない。</p> <p><b>罰 ペナルティキック</b></p> <p>例外 ボールがインゴールに入った場合<br/>         ゴールライン近くでのタックル後、ボールが手放されインゴールに入った場合、地上に横たわっているプレーヤーを含め、プレーヤーはいずれもボールをグラウンデ</p> | <p>プレーヤー以外のプレーヤーは、真後ろの方向から参加すること。</p> <p>なお、『<b>タックル・オフサイド</b>』という用語は、ルールブック上の正式な用語ではなく一般的に使用されている言葉であり、厳密に言えば、(c)に対する反則は『オフサイド』ではないが、その反則に対する再開は、『オフサイド』と同じく、相手ボールのペナルティキックである。</p> |

| 変更・追加・その他   | 備 考  |
|---|--|
| <p>イングすることができる。</p> <p>(i)タックル後<br/>相手側プレーヤーは、ゴールライン上またはゴールラインを越えてボールをグラウンディングしようと手を伸ばしてトライしようとしているタックルされたプレーヤーからボールを奪ってもよい。ただし、相手側プレーヤーはボールをキックしてはならない。</p> <p><b>第16条 ラック</b></p> <p><b>第17条 モール</b><br/>6 モールの終了（スクラムへの移行）<br/>【原文】<br/>(d) モールが停止したままであるか、前進が止まり5秒経過しても、ボールが動いていることをレフリーが目で確認できる場合には、ボールが出るために適当な時間の余裕をレフリーは与えてもよい。適当な時間内にボールが出なければスクラムが命じられる。</p> <p><b>第19条 タッチおよびラインアウト</b><br/>【変更】 <b>（試験的实施措置）</b><br/>(1) <u>ラインアウトに参加できるプレーヤーは7人以内である。ただし、この人数は、14才未満のゲームには適用されない。</u><br/>(2) <u>ラインアウトは、タッチラインより15メートル以内に、双方それぞれ2人から5人により形成されなければならない</u></p> | <p>《補足》<br/>ラック形成時にボールの前方に立ちまはだかったり、ラックに参加、または参加しようとしている相手側のプレーヤーを不当にスイープしてはならない。（前出）</p> <p>《指導項目》<br/>ボールが出ないと判断すれば安全面も考慮し早めに笛を吹き、スクラムを命じる。</p> <p>《補足》<br/>モールが横あるいは後ろに動いている場合、前進は止まったものと判断する。</p> <p>《指導項目》<br/>レフリーは、「ユーズイット」や「出して」など、プレーヤーにボールを動かすよう声をかける。</p> <p>【原文】 <b>（ジュニア・ラグビーの競技規則）</b><br/>(1) <u>ラインアウトに参加できるプレーヤーは7人である。</u><br/>(2) <u>ラインアウトは、タッチラインより10メートル以内に、双方それぞれ</u></p> |

| 変更・追加・その他  | 備 考  |
|--|--|
| <p>い。</p> <p><b>罰 ラインオブタッチの線上タッチラインから15メートルの地点においてフリーキック</b></p> <p>7 ラインアウトの形成</p> <p>【変更】</p> <p>(h)ラインアウトプレイヤーの立つ位置<br/>先頭のラインアウトプレイヤーは、タッチラインから5メートル以内に立ってはならない。<b>最後尾のラインアウトプレイヤーの立ち位置は、タッチラインから15メートルを越えてはならない。</b>その他ラインアウトプレイヤーは、この2点の間に立たなくてはならない。</p> <p><b>罰 ラインオブタッチの線上タッチラインから15メートルの地点においてフリーキック</b></p> <p>【変更】</p> <p>ラインアウトの中で発生した反則やレイトチャージその他不正なプレーなどで、競技規則においてタッチラインから15メートルに地点で与えられるペナルティキックは、<del>タッチラインから10メートルの地点で与えられる。</del> <b>15メートルの地点で与えられる。</b></p> | <p>れ5人により形成されなければならない。</p> <p>《補足》<br/>本来、ラインアウトに参加できるプレイヤーは、<br/>・投げ入れるプレイヤー（相対するプレイヤー）、<br/>・ボールをパスアウトする役目のプレイヤー、<br/>・5人のラインアウトプレイヤーの計7人であるが、<u>本大会においては試験的実施措置としてラインアウトプレイヤーを2人以上5人以下とし、その人数はボールを投入する側が決定し、5人より少なくする場合は、相手側に必ず伝えることとし、また、レフリーは相手方が人数をそろえるための時間を与えなければならない。</u></p> <p>《補足》<br/>ラインアウトのクイックスローインは認められない。</p> <p>【原文】</p> <p>(h) ラインアウトプレイヤーの立つ位置<br/>先頭のラインアウトプレイヤーは、タッチラインから5メートル以内に立ってはならない。最後尾のラインアウトプレイヤーの立ち位置は、タッチラインから15メートルを越えてはならない。その他のラインアウトプレイヤーは、この2点の間に立たなくてはならない。</p> <p>《補足》<br/>再開の位置はタッチラインから15メートルの位置となる。</p> |

| 変更・追加・その他   | 備 考   |
|---|---|
| <p>9 ラインアウトにおける制限</p> <p>【原文】</p> <p>(i) 投げ入れる前のサポート<br/> プレーヤーは、ボールが投げ入れられる前に、ボールに向かって跳び上がったり、または味方のプレーヤーをサポートしてはならない</p> <p><b>罰 ラインオブタッチの線上タッチラインから15メートルの地点においてフリーキック</b></p> <p>【原文】</p> <p>(j) ウエストより下へのプレグリップ<br/> 味方プレーヤーのウエストよりも下をプレグリップしてはならない。</p> <p><b>罰 ラインオブタッチの線上タッチラインから15メートルの地点においてフリーキック</b></p> <p>【変更】</p> <p>(k) ウエストより下へのサポート<br/> <u>跳び上がる味方プレーヤーのウエストよりも下をサポートしてはならない。</u></p> <p><b>罰 ラインオブタッチの線上タッチラインから15メートルの地点においてペナルティキック</b></p> <p>【原文】</p> <p>(l) プレーヤーを地上におろす<br/> 跳び上がる味方プレーヤーをサポートするプレーヤーは、どちらかの側のプレーヤーがボールを獲得すればすぐに、そのプレーヤーが地上におりるまでサポートし続けなければならない。</p> <p><b>罰 ラインオブタッチの線上タッチラインから15メートル</b></p> | <p>《補足》<br/> 跳び上がったり、サポートしたりできるのは、投げ入れるプレーヤーの手から、ボールが離れてからである。</p> <p>《補足》<br/> プレグリップ（跳び上がるよりも前に跳び上がるプレーヤーをつかむこと）の位置について。</p> <p>【原文】（19才未満標準競技規則）<br/> 2003年ルール改正により19才未満標準競技規則より下記（K）は削除</p> <p>(k) ウエストより下へのサポート<br/> 跳び上がる味方プレーヤーのウエストよりも下をサポートしてはならない。</p> <p>《補足》<br/> 2003年のルール改正により19才未満でもウエストより下をサポートできるようになったが、ジュニアラグビーにおいては、今年度はウエストより下のサービスオートは禁止とする。</p> <p>《補足》<br/> サポートの位置は、ベルトの高さとする。それよりも低い位置は危険なプレーである。</p> <p>《補足》<br/> 跳び上がるプレーヤーの安全のため、いずれかのプレーヤーがボールを獲得した後は、すぐに地上に降りし、また、着地するまでサポートをし続けること。</p> |

| 変更・追加・その他  | 備 考   |
|--|---|
| <p style="text-align: center;"><b>の地点においてフリーキック</b></p> <p><b>【変更】（ジュニア・ラグビーの競技規則）</b><br/> <b>注意事項：</b><br/> 負傷者に対する対応はスクラムにおいて示したとおりであるが、負傷一時対象者がいる間に生じたラインアウトについては以下のように行う。</p> <p>( ) 投入側に負傷者一時退場者がいて、ラインアウトに並ぶプレイヤーが5人より少ない場合は、投入しない側は投入側の人数にあわせる。</p> <p>( ) 投入しない側に負傷一時退場者がいて、ラインアウト並ぶプレイヤーが5人より少ない場合は、<u>投入側は投入しない側に人数を合わせる必要はない。</u></p> <p><b>第20条 スクラム</b><br/> <b>【原文】（ジュニア・ラグビーの競技規則）</b><br/> (1) スクラムは、双方共に5人で形成し、いかなる場合もこの人数を越えてはならない。<br/> (2) 安全のためにそれぞれのフロントローは、組み合う前に相手の上腕にふれなくてはならない。<br/> (3) ロックは、お互いが必ずバインドし、外側の腕は必ずブロップの腰をまくように、組まなければならない。<br/> (4) スクラムで1メートルの移動があった場合は、元の位置で再びスクラムを組む。<br/> (5) ボールの投入は、ハーフのいずれかが行い、ボールを投入するハーフ（プッター）は、投入後は直ちにオンサイドの位置に戻らなければならない。もう一人のハーフ（パッサー）は、ボール投入時に必ずスクラムの後方に位置し、スクラムから出てくるボールの最初のプレイヤーでなければならない。</p> <p><b>【変更】</b><br/> (6) パッサーの役割を果たすハーフは、ボールがスクラムに入っている間あたかもボールがスクラムから出たような素振りをしてはならない。</p> | <p><b>【原文】（ジュニア・ラグビーの競技規則）</b><br/> <b>注意事項：</b><br/> 負傷者に対する対応はスクラムにおいて示したとおりであるが、負傷一時対象者がいる間に生じたラインアウトについては以下のように行う。</p> <p>( ) 投入側に負傷者一時退場者がいて、ラインアウトに並ぶプレイヤーが5人より少ない場合は、投入しない側は投入側の人数にあわせる。</p> <p>( ) 投入しない側に負傷一時退場者がいて、ラインアウト並ぶプレイヤーが5人より少ない場合は、投入側は投入しない側に人数を合わせることなく、5人並ばなくてはならない。</p> <p><b>【原文】（ジュニア・ラグビーの競技規則）</b><br/> (6) パッサーの役割を果たすハーフは、ボールがスクラムに入っている間あたかもボールがスクラムか</p> |

| 変更・追加・その他   | 備 考   |
|---|---|
| <p><b><u>パスサーは速やかにボールをパスアウトしなければならない。</u></b></p> <p>(7) ディフェンス側のハーフについては、下記第24条を参照のこと</p> <p>注意事項：</p> <p>( ) パスサーが故意でなく最初にボールをプレーすることができなかった場合、パスサーを越えたボールについては、いかなるプレーヤーもプレーすることができる。</p> <p>( ) スクラムで相手ボールを獲得した場合、獲得した側のチームはスクラムを形成しているプレーヤー以外のどのプレーヤーも、スクラムから出たボールをプレーすることができる。</p> <p>( ) 負傷者が出て、そのプレーヤーが試合続行可能であると判断される場合は、レフリーはそのプレーヤーがプレーに参加できるまでゲームを止めて待つことを原則とする。ただし、プレー参加のためのプレーヤーへの応急処置に時間を要する場合には、レフリーはゲームを再開し、そのプレーヤーがゲームに復帰するまでの間に生じたスクラムについてはこれを行わず、本来スクラムにボールを投入する側のフリーキックで代替する。この際のフリーキックはタップキックとし、タップキックしたプレーヤーは必ずボールをパスしなくてはならない。また、タップキックは防御側（タップキックを行わない側）が10メートル後退し、防御の態勢をとって静止するまで行わない（レフリーがコントロール）。（試験的实施）</p> <p><b>罰 (2)、(5)、(6)の規定に対する反則は、反則の地点においてフリーキック</b></p> <p>【追加】</p> <p><b><u>(8)スクラムはレフリーの4段階の声、即ち</u></b></p> <p><b><u>・クラウチ</u></b></p> <p><b><u>・タッチ</u></b></p> <p><b><u>・ホールド</u></b></p> <p><b><u>・エンゲージ</u></b></p> <p><b><u>で組む。</u></b></p> | <p>ら出たような素振りをしてはならない。</p> <p>《補足》<br/>いわゆる、“キープ”させず、早い展開を促す。</p> <p>《補足》<br/>(a)クラウチ<br/>前3人は、しっかりと腰を落とす。ロックのくびはフロントローの腰と腰、またはお尻とお尻の間に入れ、お互い内側のひざを地面につき、クラウチの段階でひざをあげる。また、ロックはおのおの内側の腕を味方ロックにバインドしな</p> |

| 変更・追加・その他 | 備 考   |
|-----------|---|
|           | <p>なければならない。</p> <p>(b)タッチ<br/>プロップが相手との安全な距離をとるためにお互い相手の上腕に軽く触れることとし、相手をつかんだり、突っ張ったりさせないようにする。</p> <p>(c)ホールド<br/>この時点で、一度、全員が頭を下げない姿勢で止まって安全であることを確認する。不安定な状態でスクラムを組ませることは事故の元となる。</p> <p>(e)エンゲージ<br/>スクラムは、レフリーの“エ”のタイミングで強く早くコールしてしっかりと組ませ、体重をかけ合わせる。(ノープッシュ)</p> <p>《補足》<br/>スクラムは5人の1パックで組み、頭が腰の位置より下がらないようにする。</p> <p>《補足》<br/>フッカーはオーバーバインドで組む。</p> <p>《補足》<br/>フロントローの肩の線が真っ直ぐになるようにする。肩に位置(身長差)をあわせるために、両手を横に上げて右足を出し、低く前かがみになり組み合うまでその姿勢を保つようにする。</p> <p>《補足》<br/>フロントローは、フッカーのポジションに対し、両プロップはおのおの後方45度からフッカーに体を密着させるように組み、しっかりとバインドする。</p> |



| 変更・追加・その他   | 備 考  |
|---|--|
| <p>【追加】</p> <p><u>(9) ボールが一回で投入できない場合、二回目以降の投入に対して投入側のフッカーのみがフッキングできるものとする。</u></p> <p><b>罰 反則の地点においてフリーキック</b></p> | <p>《指導項目》</p> <p>スクラムの姿勢で、プロップの左右の足の位置をスクエア（前後しない）にして、スパイクのスタッドは全て使うようにする。（足の裏は、全体を地面につけるようにする。）</p> <p>《補足》</p> <p>レフリーは、プレイヤーがスクラムを正しく組まなかった場合は試合の早い段階でフリーキックをとり注意を与えると同時に、危険だと判断し、何度も同じ行為を繰り返される場合は、ペナルティをとる。</p> <p>《補足》</p> <p>スクラムは、お互いにウェイトをかけ合う形で組み合うものとし、組み合った後は、双方一切押し（引き）合わないとする。</p> <p>《指導項目》</p> <p>レフリーは双方の体格差などを安全面より考慮し、ウェイトをかけることを止めても良い。</p> <p>《補足》</p> <p>時間の停滞を避けるための特別措置。</p> <p>《補足》</p> <p>これは、ボール投入後、投入側がボールを支配できるということではない。</p> |